

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立皇子山中学校

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析

○調査目的

教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【結果について】

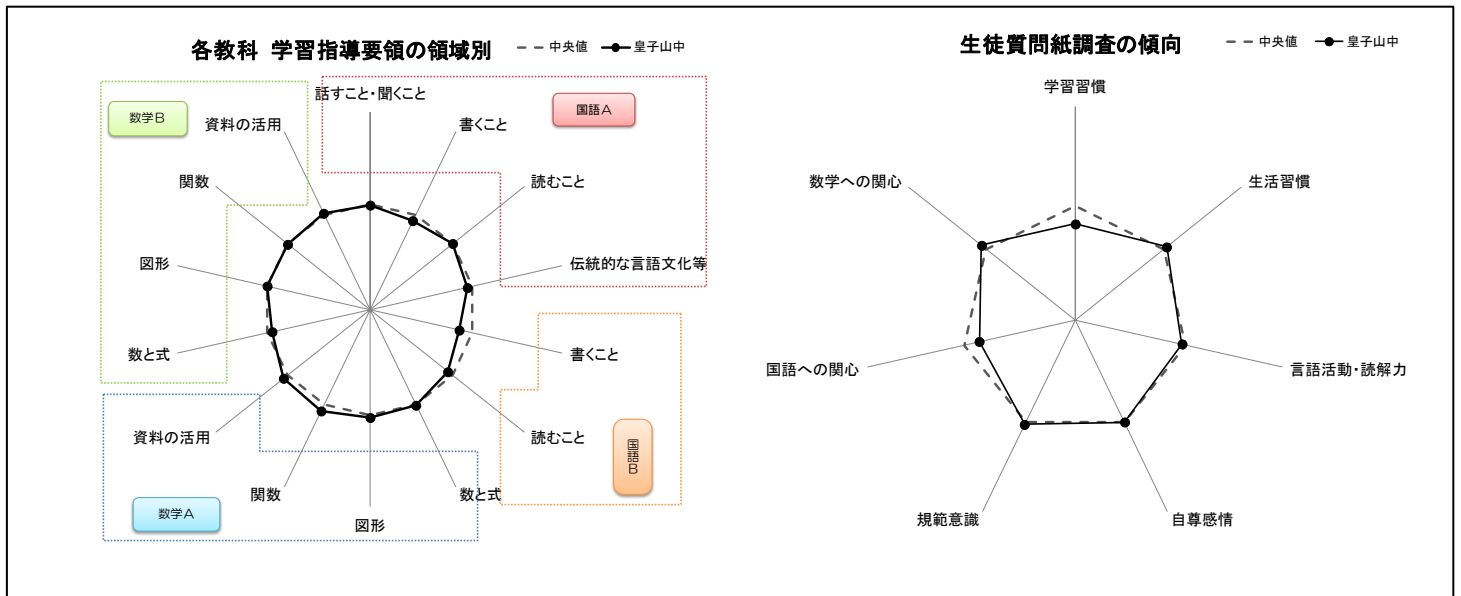
《概要》

国語A問題については、基本的な漢字の読み書きは、概ね定着していると言えます。正答率の低い漢字や慣用句は、言語環境が乏しく、語彙力の低下が要因と考えられます。B問題は、文章の中心や要旨をとらえたり、目的に応じて必要な情報を読み分ける力は全国比でも高いですが、A・B問題ともに自分の考えをまとめる力（「書くこと」の領域）に課題があります。
数学A問題の結果から、計算力は高いと言えます。計算問題を主体とした家庭学習用の宿題プリントを毎回の授業で配布する取り組みが大きな要因だと考えます。全学年の取り組みにより毎年全国平均を超える結果につながっていると考えます。数学B問題では、考え方を説明することや理由を記述して答えることに課題が残りました。

《強み・弱み》

本校で4年目を迎えた生徒同士で学び合う協同的な「学び合い学習」の成果が生徒の調査から実感として現れています。しかし、学習内容の振り返り活動において、家庭学習の時間や方法について課題が残ります。1、2年時から系統立てた学習方法を確立していくとともに、学習内容の定着について、より具体的に対応していくことや、家庭学習において予習・復習に対する取組方法の明確化を推進していく必要があります。今後は「学び合い学習」の中でお互いの対話を推し進め、解き方やその過程について説明する機会を増やすことで、学力向上に向けた学習習慣の定着を目指してしていきたいと考えます。

◇強み・弱みレーダーチャート◇ ※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。
破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

調査結果から本校生徒の特性を十分理解し、課題に対応した授業改善や教育環境の整備に力を注いでいくとともに、各教科への関心・意欲・態度が向上するための教材研究を充実させます。また教科担当教員同士での研修を綿密に行い、教員の指導力向上に向けた取り組みの充実を図ります。

本校の教育課題に沿った学校運営の推進を目指し、特に家庭学習における予習・復習の時間の確保について、より具体的な指導を行なっていくことで、自発的な学習習慣の定着を図ります。さらに学力向上に向けて、質の高い合理的な学習方法の提供を図っていきます。